

Bさんの入院体験の話

私の入院は一番症状が強かった20代前半ではなく30代前後のときです。3ヶ月ほどです。20代前半のひどかった時は母が頑なに入院を拒否しました。親の同意がないので入院に至りませんでした。しんどい時期ではありましたが、今から思うと、あの時期に入院をしていたら入院期間はもっと長引いていたかもしれません。状態が悪かったので恐らく退院をさせてもらえなかったんじゃないかと思います。

病院は自分の言いたいことを聞いてもらえる場がなかったです。言いたい事を言える環境になかったのかな…。当時、入院患者がとにかく多くて看護師さんの数が少なかったです。いつも忙しそうにせかせかイライラしていたイメージが残っています。入院した最初の頃は患者さんばかりの中で、看護師さんの姿をほぼ見なくて、自分がどういう状況でなぜこの場にいるのかわからない状況でした。また、誰に聞けばいいのかわかりませんでした。とにかく閉じ込められている感じで、体調が悪くしんどいから治療を受けているという患者としての扱いはしてもらえませんでした。

話を聞いてもらいたくても看護師さんには声をかけられる雰囲気はなく寂しかったです。やることがないので、ジュースを飲みたいわけでもないのに時間を潰す目的で買っては飲んで、缶にある原料などの表記を覚えるくらいに読んでいました。そんな生活をしていたのでぶくぶくに太ってしまいました。健康管理はされていなかったです。

こんな状況なので心配だったからだと思いますが、母が日々顔を見に来てくれていました。主治医より「そんなに来ないように言われた」と母から報告を受けたのを覚えています。治療に影響があると考えたのかと今から考えるとと思いますが、ちゃんとした説明はしてもらえていなかったのも理由はわかりません。病院の方針だったのかもしれませんが。

とにかくお喋り相手がいないのでお見舞いに来てもらう時には10円玉をたくさん持ってきてもらうようお願いをしていました。公衆電話から家に電話をいれるためです。

入院生活は毎日が戦いでした。気持ちが休まることなくいつもピリピリしていました。周囲に人が多く雑然としていたので自分の飲み物や食べ物が盗られたりしました。

治療と言えば、薬を飲むこと。私自身が薬を飲まなくなったことで再発したこともあると思いますが、とにかく強制的に薬を飲むように言われました。薬を飲んだかどうかを無理やりチェックされたり…。実際に舌の後ろに薬を隠して後で吐き出したりしていたんですけど…

でも、こんな場所で薬を飲んだらヤバイと思って嫌でした。薬を飲むと副作用で頭がぼーっとして身体がしんどくなるし、動けなくなってしまふ。病院内の環境がゴチャゴチャして閉じ込められているような場ですし、気を抜けば物が無くなるかもしれないし…そんな不安がありました。

どこに行くにも鍵がかけられるんです。ドアを通ればガチャリ、ドアを通ればガチャリという感じで管理される場所でしたから。きっと逃げ出さないようにということだったんでしょうけれど…。私も入院当初は隙があれば逃げ出したいといつも思っていました。

とにかく退院をしたいという想いでいっぱいでした。私はまだよかった方で、入院をした原因が薬を飲まなくなったことだったので、先生の治療方針が「自分でしっかり服薬できるようになること」とはっきりしていたんです。私自身は当時はっきりと説明を受けたわけではないので治療方針を理解していたわけではありませんでした。けれどチェックが厳しくなるなど結果的に薬を飲まなければいけないという状況になっていきました。最初は飲まずに隠して捨てるというようなことを繰り返していたのですが、状態が良くならないのでおかしいと思われたんだと思います。そのうちバラバラだった飲む時間や場所がはっきり決まっていき、「これは飲まなければいけないな」と自分で

も感じるようになっていきました。嫌ではあったけれど、退院をしたいという想いと、主治医の治療方針があったので退院にたどり着けたのだと思います。主治医が治療方針を持っていたと感じるようになったのは後からです。当時は目の前の現状に必至でそれどころではありませんでした。でも薬を飲まないといけないなという状態につながったので。それがなければどうなっていたかわかりません。治療方針がはっきりしていなければただただ目的もなく病院内で過ごしていたんじゃないでしょうか…。当時の私は服薬の辛さが勝り、薬の重要性がわかっていませんでした。今から思うと看護師さんや周囲の専門職の方々が親身になってなぜ薬を飲む必要があるのかを気付かせてくれたら、もう少し早くにきちんと薬を飲んでいたようにも思います。

私が入院していた時代はデイケアがなかったので何もすることがありませんでした。退院はしたけれど、その後もしんどかったです。病院にデイケアがなかったので退院後に過ごせる場所がなくて家の中に引きこもったままでした。私は自宅があったので退院できましたが、今から思うと退院後の居場所がないことも退院し辛い状況があったんじゃないかと思います。私もとにかく居場所を求めています。

どのくらい経った時か記憶が曖昧ですが、保健所でデイケアがあることを見つけて月に数回でしたが通うようになりました。料理を作ったり、絵を描いたり。時間の過ごし方を学びました。保健師さんがたくさん話を聴いてくれて、アドバイスをしてくれたりと一人の人として接してもらえたと感じました。そこで今の場所を紹介してもらって通うようになって今日に繋がっています。

作業所に通うというのは世界が全然違いました。入院中はベッドが自分の世界のすべてでしたから。入院中はソーシャルワーカーさんの存在も知らなかったし、ケアをしてもらったという記憶がないです。

良かったのか悪かったのかはわかりませんが、20代前半から後半は調子が悪いままに自宅で過ごしていて、このままではいけないという想いがありました。私自身はしんどい状態は続いていましたが、服薬などで症状を抑えることができていたこともあり、主治医からは仕事をするように繰り返し言われていました。その後、アルバイトとかパートという形でしたが、しんどいながらも仕事を変えながらではありますが4年ほどは社会に出て働くことができていました。そこから薬を飲むと体が重くてしんどくなることから薬を飲まなくなり、結果調子を崩して入院をした経過があります。社会生活を経験してからの入院ということもあり、そのギャップがすごく入院時の自分のショックも大きかったのだと思います。とにかく集団で行動を縛られていたし、自分のペースというものはなかったです。

入院当時の体験から今でもしんどくなったとしても絶対に入院はしたくないと思います。ほんとうは今もしんどくてどうしようもない時があるので入院をすることも考えることもあります。もし安心して身体を休ませられる場所なら入院も考えたいと思えるのですが…。

当時もせめて安心して身体を休ませることができる環境と、薬が嫌でも納得して服薬するための説明があったらよかったのにとと思います。それから今のようにリハビリができる環境が整っていれば早く退院をして社会に復帰できるのではないかと思います。